令和６年度　南信州広域連合自立支援協議会人材育成部会活動報告

１　令和６年度の活動目標

「ネットワーク作り」をテーマに、部会を通して圏域内の法人、事業所、市町村からの情報を共有し連携体制の強化、情報交換の場としていく。

また、相談支援専門員としての役割とチーム作りについて、手順を含めた基本の確認と多職種協働の大切さについて確認し、主体性を持った事例検討を行う。

２　部会の開催日程及び取組内容

(1) 専門研修会の開催日程及び取組内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催月日 | 参加者 | 内容等 |
| 第１回10月10日（木） | 61名 | 「今、改めて振り返ろう！障害福祉サービスの支給決定プロセスと相談支援専門員の役割と大切な視点」講師：特定相談支援事業所ウィズユー主任相談支援専門員　寺澤　美和　氏会場： 飯田市上郷公民館　2F　201講堂 |
| 第２回11月29日（金） | 88名 | こども部会・人材育成部会　合同研修会「本人のライフステージと意思決定をどう支援していくか」講師：日本相談支援専門員協会顧問　福岡　寿　氏会場： 飯田市上郷公民館　2F　201講堂 |

(2) 相談支援専門員の会の開催日程及び取組内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催月日 | 参加者 | 内容等 |
| 第１回５月21日（火） | 27名 | ・令和６年度活動計画について・サービス担当者会議の持ち方について・長野県障がい者相談支援従事者人材ビジョン（ver.2.1）について・いいだ障がい福祉プラン2024について会場：飯田市上郷公民館　102　中会議室 |
| 第２回７月16日（火） | 27名 | 前回の事例報告・前回の事例報告・事例検討1ケース　×5グループ・相談支援の主任加算について |
| 第３回10月15日（火） | 34名 | ・前回の事例報告　・事例検討1ケース　×6グループ・相談支援従事者研修について |
| 第４回　12月10日（火） | 38名 | ・サービス等利用計画作成上の留意点・医療等の多機関連携のための加算の拡充等について・前回の事例報告・事例検討1ケース×5グループ |
| 第５回　２月18日（火） | 30名 | ・前回の事例報告・事例検討１ケース×5グループ・令和６年度の活動の振り返り(アンケート集計を基に)、令和７年度に向けた活動検討 |

(3) グループホームバックアップ担当者会の開催日程及び取組内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催月日 | 参加者 | 内容等 |
| 第１回６月11日（火） | 13名 | ・令和５年度　活動報告について　・令和６年度　活動計画について・グループホーム世話人研修会について会場：さんとぴあ3F　第1講習室 |
| 第２回７月30日（火） | 12名 | ・世話人研修会について（事前提出資料をもとに検討）・地域連携推進会議について |
| 第３回９月10日（火） | 14名 | ・世話人研修会についてグループホームバックアップ担当者でシミュレーション演習 |
| 10月31日（木） | 47名 | グループホーム世話人研修会「井戸端café～ほっこりしたこと、困ったこと、聞きたいことを話そう♪」会場： 飯田市上郷公民館　2F　201講堂 |
| 第４回12月10日（火） | 14名 | ・世話人研修会の振り返り・地域連携推進会議について（アンケート集計） |
| 第５回２月12日（水） | 15名 | ・令和６年度の活動の振り返り(アンケート集計を基に)、令和７年度に向けた活動検討 |

３　活動成果

(1) 専門研修等

・10月10日「今、改めて振り返ろう！障害福祉サービスの支給決定プロセスと相談支援専門員の役割と大切な視点」をテーマに特定相談支援事業所ウィズユー　主任相談支援専門員　寺澤美和氏に講師を依頼、サービス事業所のみならず多方面からの参加があり、障害福祉サービスを改めて確認することができる場となった。先々までのイメージ、５年後、10年後を見据えて次のステージへの引継ぎの為にも丁寧なアセスメントが必要であることを再確認できた。

・11月29日こども部会との合同専門研修会「本人のライフステージと意思決定をどう支援していくか」では日本相談支援専門員協会顧問　福岡寿氏に講師を依頼し、こども本人や家庭への支援や成人期以降につながる多様な学びを深めることができた。

(2) 相談支援専門員の会＞

・ＧＳＶ（グループスーパーヴィジョン）という手法を用いた事例検討を中心に継続して活動を行なっている。会の終わりに今回の事例検討で採択を決めた支援のアイディアを発表、次回の会の冒頭に前回事例検討で採択した支援のアイディアの導入後の様子について報告する時間を設けており、自身が事例を出した場合は期限も意識できるので良い。

・決まった形でＧＳＶが行われるため意見が出しやすい。社会資源の共有もできる。また自分とは違う視点のアドバイスをもらえる。

・事例を基にいろいろな連携についての学びや情報交換、共有の場であり、相談支援専門員同士のつながりの場でもある。

(3) グループホームバックアップ担当者会議

・今年度（令和6年度）の障がい福祉サービス等報酬改定により、居住系サービスである共同生活援助と障がい者支援施設において、地域との連携等を充実させるために「地域連携推進会議」の開催及び会議の構成員が事業所を見学する機会を設けることが令和7年度より義務付けられる。それぞれのグループホーム（所属法人）での取り組み状況等を共有し、来年度にむけての準備をする機会となった。

・コロナ禍以後、今年度は集合研修でグループホーム世話人研修会を開催、「井戸端café～ほっこりしたこと、困ったこと、聞きたいことを話そう♪」を企画しグループワーク形式でそれぞれのグループホームでの様子、エピソードなど含め共有でき、自身の所属するグループホーム以外の世話人と交流できる良い機会となった。

・昨年度に引き続き、各グループホームの現状や対応について話し合うことができ参考になった。（感染症対策についての情報共有等）

４　次年度に向けて検討すべき課題等

(1) 専門研修等

・年間2回（上半期・下半期）開催予定。

(2) 相談支援専門員の会

・ＧＳＶ１事例で継続する

・社会資源の共有

・関係機関との連携や相談支援専門員同士のつながり方について

・相談支援専門員の質の向上に向けて

(3) グループホームバックアップ会議

・地域連携推進会議について

・災害時のＢＣＰについて

・世話人研修の継続→集合研修で予定。